

浅井家を支えた朝倉家

朝倉氏がいたから三姉妹が誕生した



朝倉氏のバックアップがなかったら、浅井三姉妹は生まれてなかったかもね!

今年のNHK大河ドラマ「江」姫たちの戦国に登場する三姉妹の実父浅井長政は、近江・江北の浅井家の3代目でした。浅井家と、越前を支配していた朝倉家とは同盟を結んでおり、長政の祖父・浅井亮政は、江南の六角氏との戦いで苦杯を喫するたび、朝倉氏に援軍を依頼したといわれています。

長政が20歳の頃、織田信長は、妹「市」を長政に嫁がせます。天下統一を狙う上で近江を最重要地点と考え、浅井家との同盟を重視したわけです。ところが、朝倉家と織田家は敵対関係にありましたが、浅井家は、この結婚で両家と同盟を結んでしまったのです。

そんな環境でしたが、長政と市は、仲睦まじく結婚生活をおくり、三女をもうけます。しかし、長政は朝倉家との関係を断ち切れず、義景とともに信長に反旗を翻す日がやってきました。

1570年に起こった信長の金ヶ崎城攻めめるときは、織田軍の退路をふさぐと長政が出兵し、信長はあわてて退却。この出兵は、長政にとって苦渋の決断だったわけですが、ここに浅井家が朝倉家に感じていた恩義や信頼の大きさがうかがえます。

その後、姉川の合戦、坂本の戦い、小谷城籠城などの激しい戦いを重ねますが、浅井・朝倉軍は敗れ、1573年、義景は刀根坂の合戦を最後に自刃。その数日後、長政も小谷城にて自害します。そして、朝倉氏の城下町・一乗谷は信長によって焼き払われ



今回の語り部

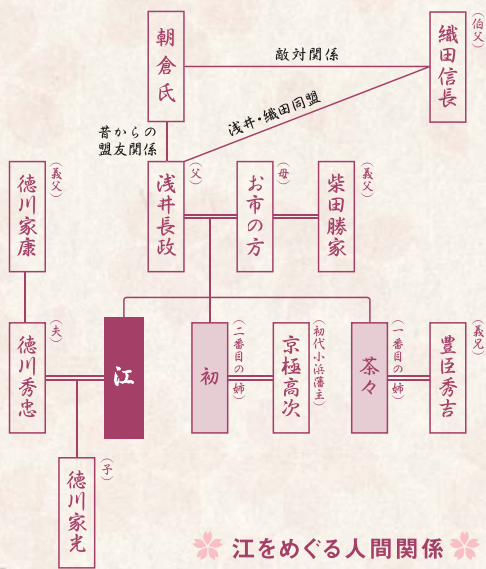
岸田清さん

(社)朝倉氏遺跡保存協会会長

語り部の代表格。名ガイドで朝倉氏遺跡の魅力をつぶり伝えてくれます。

てしまうのです。朝倉氏は滅亡しましたが、私は、浅井家が存続したのは、朝倉家の支援があったからだと思います。長年の朝倉氏の助けがなかったら、三姉妹も誕生していなかったのでは……ということですね。

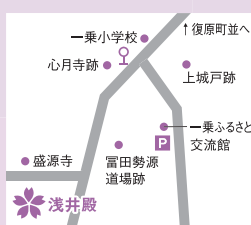
市は、その後柴田勝家と再婚しますが、勝家が豊臣秀吉に討たれたとき、共に自害してしまいます。しかし、三姉妹は秀吉に引き取られ、織田家と浅井家の血をつないでいきました。中でも末っ子の江は、徳川2代将軍秀忠の妻となり、将軍家と天皇家にその血を引き継いでいきます。日本史上、これほど華々しい家系を持つ女性はいくつか。日本史上、これほど華々しい家系を持つ女性はいくつか。これもまた、朝倉氏がいたからこそといえるかもしれませんね。



江をめぐる人間関係

浅井殿

「朝倉館跡(義景屋敷跡)」から一乗谷川を1kmほど上流へ上ると、「盛源寺」(上城戸から外れた位置にある天台宗真盛派の寺)の石仏群が見えてきます。この南側に、当時、浅井氏が住んでいた「浅井屋敷」があり、今でもこの地には、「浅井殿」という字名が残っています。



【電車】京福バス福井駅前乗り場⑨(東郷線)→(バス25分) 武家屋敷前下車 徒歩10分
 【車】北陸自動車道……福井IC→(ICから車10分) 国道158号 東海自動車道……白鳥西IC→(ICから車60分) 国道158号

「小谷城」の朝倉氏館跡

小谷城山王丸から谷筋へ下り、さらに山道を登ると、小谷山の頂上となります。ここには、元亀年間に朝倉軍が駐留した際に築かれたと考えられている「大獄城」があります。現在は、曲輪・横堀群などが残されており、これらの遺構は直角に成型され、小谷城の主郭部よりも高度な技術がうかがわれます。



【電車】JR北陸本線 河毛駅下車→湖北コミュニティバス 歴史資料館前下車 山道を徒歩2時間
 【車】北陸自動車道 長浜IC→国道365号→「小谷・江のふるさと館」から小谷城バスに乗換、バスと徒歩で1時間。本丸から徒歩1時間